マナビエ
MANABIE

記述の設計図　第4部 4つの型

U12　気持ち型（どんな気持ちか）

ベーシック

対象：小学5年・偏差値55〜60

1. 要点（ルール）
2. 例題　物語文「にじんだ原稿」
3. 練習1・練習2（解答らんつき）
4. 解答と採点表

要点　気持ち型のルール

R12-1　気持ちは「きっかけ＋気持ち」

「気持ちを説明しなさい」と聞かれても、気持ちの言葉だけでは点にならない。その気持ちになったきっかけ（理由）を前につけ、「～気持ち。」で終える。きっかけ→気持ちがそのままつながるかは、U10のつながりテスト（R10-1）で確かめる。

R12-2　言動が先、情景はあと

気持ちの根拠は、まずセリフ・行動・表情（言動）から取る。天気や景色（情景）は、言動で決めた気持ちを確かめるのに使う。晴れていても悲しいことはある。情景だけで気持ちを決めない。

R12-3　根拠のある気持ちは全部・根拠のない気持ちは入れない

気持ちは一つとは限らない。本文の言動から読み取れる気持ちは、全部入れる。でも、本文のどこにも根拠のない気持ちを足すと点にならず、本文とずれた答えとして減点されることもある。気持ちの一つ一つに「何段落か」を書いてから使う。

R12-4　自分への気持ち・相手への気持ち

気持ちには向きが2つある。自分に向く気持ち（うれしい・くやしい・情けない・ほこらしい）と、相手に向く気持ち（感謝・申し訳ない・うらやましい・腹立たしい）。両方の向きからさがすと、見落としがへる。

R12-5　気持ちの変化は4つの材料

①変化前の気持ちの理由 ②変化前の気持ち ③変化のきっかけ ④変化後の気持ち。後ろ（変化後）から読むと見つけやすい。「変化前は変化後の反対」は多くの場合の話（傾向）なので、本文で必ず確かめる。形は「～で～だったが、～して、～になった。」

R12-6　葛藤は「理由＋気持ち」を2回

心の中で反対の気持ちがぶつかっているとき（葛藤）は、気持ちAとその理由、気持ちBとその理由を書き、「～が、～」でつなぐ。片方だけだと、半分ほどの点しか入らない。

ルールの番号（R12-○）は、講座全体の通し番号です。動画・Webページ・このPDFで同じ番号を使っています。

例題　物語文「にじんだ原稿」

① ハルトとユウキは、学級新聞の係だ。今週は、ユウキが「クラスの花だん」の記事を書くことになっていた。

② 昼休み、ハルトは教室で、できあがったユウキの原稿を読んでいた。花だんのチューリップの絵まで、色えんぴつでていねいにぬってある。「すごいな」と思いながら、ハルトは水とうのお茶を飲もうとした。そのとき、ひじが水とうに当たった。

③ お茶は原稿の上に広がり、文字も絵も、みるみるにじんでいった。

④ 「あっ、ごめん！」

⑤ ハルトが大きな声を出すと、ユウキは一しゅんだまったが、すぐに「いいよ、いいよ。また書けばいいんだから」と笑った。

⑥ 次の朝、ユウキは新しい原稿を持ってきた。字も絵も、前よりていねいになっていた。けれど、ユウキの目は少し赤く、「きのう、夜の十一時までかかっちゃった」と小さくあくびをした。

⑦ ハルトは、自分のそそっかしさが情けなくなった。

⑧ 窓の外には、雲一つない青空が広がっていた。

⑨ ハルトはユウキの前に立つと、「ほんとうに、ごめん」と言って、深く頭を下げた。

問　――線部「深く頭を下げた」とありますが、このときのハルトの気持ちを、五十字以内で説明しなさい。

解き方

1. **手順1　――線部は何？**
   頭を下げるという行動。気持ちを聞かれているので「きっかけ＋気持ち」で書く（R12-1）。
2. **手順2　言動から気持ちを拾う**
   ⑨「ほんとうに、ごめん」→ユウキに申し訳ない（相手への気持ち）。⑦「自分のそそっかしさが情けなくなった」→自分が情けない（自分への気持ち）。向きの2つちがう気持ちが、両方とも本文にある（R12-2・R12-4）。
3. **手順3　情景は確かめに使う**
   ⑧「雲一つない青空」。明るい気持ち？　言動（頭を下げる・情けない）と合わない。この青空は、ハルトの気持ちを表していない。情景だけで決めない（R12-2）。
4. **手順4　きっかけをさがす**
   ②③お茶をこぼして原稿をにじませた。⑥ユウキは夜の十一時まで書き直し、目が赤い。→ユウキに夜おそくまで書き直させてしまった。
5. **手順5　根拠のない気持ちは入れない**
   「くやしい」「悲しい」は本文のどこにもない（R12-3）。きっかけ→二つの気持ち→「～気持ち。」の順に書く。

要素表(材料を集める)

要素	中身	根拠	入れる？
相手への気持ち	ユウキに申し訳ない	④⑨	◎ 入れる
自分への気持ち	そそっかしい自分が情けない	⑦	◎ 入れる
きっかけ	お茶をこぼし、ユウキに夜おそくまで原稿を書き直させた	③⑥	○ 入れる
情景	雲一つない青空(言動と合わない)	⑧	× 気持ちの根拠にしない
根拠なし	くやしい／悲しい／腹が立つ	なし	× 入れない

模範解答

模範解答　48字／50字以内

ユウキに夜おそくまで原稿を書き直させてしまって申し訳なく、そそっかしい自分を情けなく思う気持ち。

採点表

採点表(要素ごとの配点)	点
気持ち二つ:ユウキに申し訳ない(相手へ)＋自分が情けない(自分へ)	5点
きっかけ:お茶をこぼし、ユウキに夜おそくまで原稿を書き直させた	3点
だれに向けた気持ちかがはっきりしている	1点
文末が「～気持ち。」	1点
合計	**10点**

減点の型(こう書くと)	何点になる？ なぜ？
「青空のように、すっきりした気持ち。」	情景だけで決めた。言動(頭を下げる・情けない)と合わない。0点。
「申し訳ない気持ち。」	気持ちが一つだけ(5点中3点)で、きっかけも無い。文末の1点と合わせて4点。
「申し訳なく、情けなく、くやしく、悲しい気持ち。」	くやしい・悲しいは根拠なし(点にならず、ずれた答えとして減点されることも)。きっかけも無い。
「すぐに書き直さないユウキに腹が立つ気持ち。」	本文と反対(ユウキは次の朝に持ってきた)。0点。
五十一字以上	字数オーバー。採点されないことが多い(0点)。

練習1　物語文「伴奏」

① 合唱コンクールで、ナツキはピアノの伴奏をすることになった。クラスで一人だけ、ピアノを習っていたからだ。

② けれど、練習が始まると、ナツキの指は思うように動かなかった。わたしがまちがえたら、みんなの歌が止まってしまう。そう思うと、ますます指がかたくなった。家に帰っても、楽ふを見るたびにため息が出た。

③ コンクールの一週間前、通し練習のとちゅうで、ナツキはとうとう大きくまちがえて、手を止めてしまった。教室がしんとなった。ナツキは顔を上げられなかった。

④ そのとき、指揮者のコウタが言った。「もう一回、今のところからやろう。ナツキのピアノがあると、ぼく、すごく歌いやすいんだ。」まわりの何人かも、「そうそう」「まちがえても、みんなで歌でカバーするよ」とうなずいた。

⑤ ナツキは、ゆっくり顔を上げた。みんなの顔が、まっすぐこちらを向いていた。もう一度ひいた同じところは、ふしぎなほど指が軽く動いた。

⑥ その日の帰り道、空は朝からのくもりのままだった。けれどナツキは、楽ふを胸にかかえて、早く家でもう一度ひいてみたいと思いながら、少し早足で歩いた。

問　――線部「早く家でもう一度ひいてみたい」とありますが、ここまでにナツキの気持ちはどのように変化しましたか。六十字以内で説明しなさい。

① 要素表を書こう

要素（気持ち・きっかけ・変化前／変化後）	中身	根拠の段落

② 答えを書こう

									10										20
									30										40
									50										60

60字以内（1マスに1字。句読点も1字）

練習2　物語文「リレーの選手」

① 運動会のクラス対こうリレーの選手を、あと一人決めることになった。先生が「出たい人は、手を挙げて」と言った。クラスの何人かが、ちらりとカイの方を見た。カイの足が速くなったことは、みんな知っている。

② カイは、去年のリレーで、最後に二人にぬかれた日のことを思い出した。あれから一年、毎朝、家の前の坂道を走ってきた。五十メートル走のタイムも、クラスで三番目まで上がった。今年こそ、リレーで走って、去年の分を取り返したい。

③ そのとき、となりの席のケンが、つくえの下で小さくこぶしをにぎっているのが見えた。ケンは休み時間になると、いつも「一度でいいから、リレーに出てみたいな」と言っていた。この前の体育のあとも、「おれ、カイみたいに速くなりたいよ」と笑っていた。タイムは、カイと〇・一秒しかちがわない。カイが手を挙げれば、先生はきっと、少しでも速いカイを選ぶだろう。

④ カイは、右手を半分まで挙げかけて、そのまま止めた。

⑤ 先生が「ほかに、いないかな」と教室を見回した。教室の時計の針の音が、やけに大きく聞こえた。

問　――線部「右手を半分まで挙げかけて、そのまま止めた」とありますが、このときのカイの気持ちを、六十字以内で説明しなさい。

① 要素表を書こう

要素（気持ち・きっかけ・変化前／変化後）	中身	根拠の段落

② 答えを書こう

									10										20
									30										40
									50										60

60字以内（1マスに1字。句読点も1字）

解答と採点表

練習1　物語文「伴奏」

解き方

1. **手順1　変化後から読む**
   ⑥「早く家でもう一度ひいてみたい」「少し早足」→安心して、前向きな気持ち（R12-5）。
2. **手順2　変化のきっかけ**
   ④コウタの「ナツキのピアノがあると歌いやすい」、みんなの「歌でカバーする」。
3. **手順3　変化前の気持ちとその理由**
   ②「まちがえたら、みんなの歌が止まってしまう」→不安。③大きくまちがえて顔を上げられない。ここは変化後の反対になっている（多くの場合そうなるが、本文で確かめてから使う）。
4. **手順4　情景にだまされない**
   ⑥「空は朝からのくもりのまま」。くもり＝まだ不安？　言動（早くひいてみたい・早足）と合わない。情景だけで決めない（R12-2）。
5. **手順5　4つをつなぐ**
   変化前の理由→変化前の気持ち→きっかけ→変化後の気持ち。「～だったが、～と言われ、～になった。」

要素表

要素	中身	根拠	入れる？
変化後の気持ち	安心して、前向きになった（早くひいてみたい）	⑤⑥	◎ 入れる
きっかけ	ピアノがあると歌いやすい・みんなでカバーすると言われた	④	◎ 入れる
変化前の気持ち	不安	②③	○ 入れる
変化前の理由	まちがえたら、みんなの歌が止まってしまう	②	○ 入れる
情景	くもりのまま（言動と合わない）	⑥	× 根拠にしない

模範解答

模範解答　56字／60字以内

まちがえたらみんなの歌が止まると不安だったが、ピアノがあると歌いやすいと言われて安心し、前向きな気持ちになった。

採点表

採点表(要素ごとの配点)	点
変化後の気持ち(安心・前向き)＋きっかけ(歌いやすいと言われた)	5点
変化前の気持ち(不安)＋その理由(まちがえたら歌が止まる)	3点
「～だったが、～になった」で変化がわかる形	1点
文末が「～なった。」など変化の形	1点
合計	**10点**

減点の型(こう書くと)	何点になる？ なぜ？
「空がくもったままなので、まだ不安な気持ち。」	情景だけで決めた。言動(早くひいてみたい)と合わない。0点。
「不安だったが、安心した。」	理由もきっかけも無い。気持ちだけでは、10点中3点ほど。
「コウタに注意されてくやしかったが、～」	コウタは注意していない(根拠なし)。その部分は0点。

練習2　物語文「リレーの選手」

解き方

1. **手順1　――線部の動きを映像にする**
   挙げかけて(出たい)、止めた(ためらう)。反対の二つの気持ちがぶつかっている＝葛藤(R12-6)。
2. **手順2　気持ちAとその理由**
   ②毎朝坂道を走ってきた・去年の分を取り返したい→リレーに出たい(自分への気持ち)。
3. **手順3　気持ちBとその理由**
   ③ケンはいつも出たいと言っていた・カイが手を挙げればケンが選ばれない→ためらう(相手への気持ち)。
4. **手順4　決めたとは書いていない**
   「ケンにゆずった」とは本文にない。止めたまま＝まだ迷っている。根拠のないことは書かない(R12-3)。⑤の時計の音は、迷っている時間の長さを確かめる情景。

要素表

要素	中身	根拠	入れる？
気持ちA	リレーに出たい	②④	◎ 入れる
理由A	毎朝練習してタイムが上がり、去年の分を取り返したい	②	○ 入れる
気持ちB	手を挙げるのをためらう・迷う	④	◎ 入れる
理由B	自分が手を挙げると、出たがっているケンが選ばれない	③	○ 入れる
根拠なし	ケンにゆずると決めた／ケンが親友だから	なし	× 入れない

模範解答

模範解答　54字／60字以内

毎朝練習してきたのでリレーに出たいが、自分が手を挙げると、出たがっているケンが選ばれなくなるので迷う気持ち。

採点表

採点表(要素ごとの配点)	点
二つの気持ち:出たい／ためらう・迷う	5点
それぞれの理由:毎朝練習してきた／ケンが選ばれなくなる	3点
「〜が、〜」で二つの気持ちをつないでいる	1点
文末が「〜気持ち。」	1点
合計	**10点**

減点の型(こう書くと)	何点になる？ なぜ？
「リレーに出たい気持ち。」	片方だけで理由も無い。10点中3点ほど。
「ケンにリレーをゆずってあげたい、やさしい気持ち。」	ゆずると決めたとは書いていない(止めたまま)。出たい気持ちも落ちている。
「時計の音が大きくて、こわい気持ち。」	情景だけで決めた・根拠なし。0点。

マナビエ
MANABIE

記述の設計図　U12 気持ち型（ベーシック）

© MANABIE　無断転載・複製・改変・再配布を禁じます